

キャラクター名  
九道 玄武(クドウ ゲンプ)

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン		ワークス	傭兵	カヴァー	傭兵
	ノイマン					
オプション			年齢	35	性別	男性
覚醒	償い	衝動	闘争	初期侵食率	38	%
出自	天涯孤独	経験	永劫の別れ	邂逅	ビジネス	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	46
肉体	0	1	0			1	行動値	32
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	29
精神	6	0	0		18	24	戦闘移動	34
社会	2	0	0		1	3	全力移動	68

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	11	45	射撃	1		RC			交渉		
回避			知覚	1		意志			調達		
運転:	2		芸術:			知識:			情報: 軍事	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
闘争の剣	白兵	24r+56		8		
日本刀	白兵	23r+56	3	13		
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
白猿の額冠※		5		3	

所持品	
超越する黎明の戯れ(第1効果)	(第3効果)
(第2効果)	超越する原始の戯れ(第1効果)
(第3効果)	(第2効果)
極限に至る黎明(第1効果)	(第3効果)
(第2効果)	極限に至る原始(第1効果)
(第3効果)	(第2効果)
超越する純血の戯れ(第1効果)	(第3効果)
(第2効果)	戦場に導かれし戦士の共闘(第1効果)
(第3効果)	(第2効果)
極限に至る純血(第1効果)	(第3効果)
(第2効果)	教導にて磨かれし鬼才の業(第1効果)

合計装甲: 5 合計回避: 0

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイマス消費
申し子&遺産継承者P		N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
不可思議な虫	P	N	

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	自身	シンドローム	-	
効果: c値-Lv								
マルチウェポン	7	3	メジャー	-	-	白兵	-	
効果: 武器二つ使用								
ヴァリアブルウェポン	12	4	メジャー	-	-	白兵	リミット	
効果: 武器を追加でLV個使用								
超越する黎明の戯れ	★	-	常時	-	自身	-	?	
効果: 所持品・所持金を参照								
ファンアウト	1	4	セット	至近	範囲(選択)	-	-	
効果: 自分以外移動								
コンバットシステム	4	3	メジャー	-	-	白兵	-	
効果: 判定+(Lv+1)D								
武芸の達人	12	-	常時	-	自身	-	-	
効果: 白兵+45 基本侵蝕+4								
+3Lv	★							
効果:								
蟲憑き	12	-	常時	-	自身	-	-	
効果: 精神+15								
+3Lv	★							
効果:								
リフレックス	2	2	リア	-	自身	シンドローム	-	
効果: c値-Lv								
ランナウト	4		オート				Dロイス	
効果: ヴァリアブルウェポンのLv+2								
切り払い	★	1	リアクション	-	自身	白兵	-	
効果: 白兵で回避								

昔はある組織に所属していた殺し屋だったが  
仕事を行った際に赤ん坊を見つけてしまい命の重さを再認識してしまった。  
その後、相手を殺せなくなってしまい組織を退職した。  
喫茶店を営んでいたが、いつも来る孤児院が襲われてからは  
店を閉め、フリーランスの傭兵をしながら各地を回り  
襲った奴の情報を集めている。

昔いて組織は仕事人の様な組織  
ルール1: 仇討ち専門  
ルール2: 依頼の勧誘はしない  
矜持: 殺しを楽しまない

夢「平穩に過ごす」  
かつて組織を抜けてどう生きていくかを考えた際に自覚した夢  
だが同時に、理由は何であれ自分は人を殺した  
そんな自分は平穩に過ごす資格があるのかと思っている。  
ゆえに、他人の平穩を守ろうとする。  
それが、エゴだという理解はしているが、他の方法を知らないから守り、  
そして、また守ると同時に奪ってしまったんじゃないと思い、自責の念に駆られ同じことを繰り返す。

